

**1. 科目コード**

1290

**2. 科目名**

ビジネスプロセス実験

**3. 担当教員**

二見 強史 (Tsuyoshi Futami)

**4. 開講期**

春3学期～秋1学期

**5. 科目の目的・概要**

ビジネスアナリストは、推奨したソリューションに責任を持つことが求められます。このコースでは、失敗事例や成功事例からビジネスアナリスを学びます。多数のケースをこなすことで問題解決能力を養います。

**6. 科目の学習目標**

- (1) 問題の原因の追究と解決へ知識体系を適用できる。
- (2) 答えの見えないところに回答を作り出すに知識体系を利用できる。
- (3) 問題を発生させないようにすることに知識体系を応用できる。
- (4)
- (5)
- (6)

**7. 本学の教育目標と科目の学習目標との対応**

教育目標		学習目標	
高度ICT スキルの修得	基礎的素養		
	専門知識および業務応用力	(1),(2),(3)	
人間力 (=探究力) の修得	自ら強みを磨き続ける力	(1),(2),(3)	
	自ら社会における 課題を発見し、 解決する力	課題設定	(1),(2),(3)
		仮説立案	(1),(2),(3)
		仮説検証	(1),(2),(3)
		実行	(1),(2),(3)
	社会人基礎力	前に踏出す力	(1),(2),(3)
		考え抜く力	(1),(2),(3)
チームで働く力			
職業倫理の修得			

**8. 履修要件(前提科目)**

「1299 ビジネスプロセス特論」を履修しているか、または同等の知識を有することが望ましい。

**9. 教科書**

事例から学ぶビジネスアナリス,2013,IIBA日本支部

<http://www.iiba-japan.org/know-how/BAs.pdf> からダウンロード可能

**10. 参考書**

ロバート・イン「ケーススタディの方法」

日経コンピュータ中「動かないコンピューター」の記事など

## 11. 評価方法と配点

学習目標	達成度評価方法と配点					
	期末試験	小テスト	レポート	発表	成果物	その他
(1)			○	○		
(2)			○	○		
(3)			○	○		
(4)						
(5)						
(6)						
配点			50	50		

## 12. 備考

ケーススタディは、ビジネススクールで用いられている教育目的のものと、仮設検証のために用いられるものと2種類あります。講義では、参考図書「ロバート・イン『ケーススタディの方法』」を用いて後者の方法論を概説します。

## 13. 授業計画

(注) 授業計画は、あくまでも予定であり、実施時に、適時、追加・変更・修正等が生じる場合があります。

第1回 (オリエンテーション)

(講義と演習180分)

自己紹介

1. 授業の進め方
2. グループ討議の方法論
3. ケーススタディの方法論

第2回～第28回 (事例研究)

(講義とグループ演習で180分)

・グループ討議を基本とします。毎回、誰かがファシリテーターと書記にあたります。(原則として、ファシリテーターに指名された人が、テーマを用意します。)

第29回・第30回 (発表会)

(発表と講評で180分)

発表内容は第2回～第28回までの間に、複数のケースを指示します。